

1 単元 火事からくらしを守る ～くらしを守る～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、「あめができるまで」の学習において、地域に見られる生産の仕事について、学習問題を追究・解決する活動を経験している。そこでは、仕事の種類や産地の分布などに着目しながら、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉えてきた。このような子どもが、「火事からくらしを守る」の学習においても、施設・設備などの配置や緊急時への備えなどに着目しながら、どのような人々が地域の安全を守っているのかについて、学習問題を追究・解決する活動に取り組めば、社会の見方を広げることができるだろう。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は、火事からくらしを守る働きについて、予防対策や緊急時の対応などといった活動、消防署や消防団などといった機関に着目しながら追究することができる教材となっている。ここでは、火事からくらしを守る働きについて、考えを更新させながら、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することが大切である。そこで、火事による被害が減少している要因についてまとめる活動を設定する。子どもは、火事が発生した時だけでなく、その予防に努めている人々の存在を捉え、気付いたことや見いだしたことを交流し、火事による被害が減少している要因について考えをまとめることで、社会の見方を広げていくだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元の初めに、火事の被害数や発生件数に関する資料を提示する。そうすることで、予防対策や緊急時の対応などといった活動に着目しながら、火事による被害が減少している要因について追究することができるようにする。
- 単元を通して、学習問題について追究したことをまとめさせ、それを交流する活動を設定する。そうすることで、新たな問いを見いだしたり、考えを更新したりすることができるようにする。

3 目標

火事から地域の人々の安全を守る働きについて、施設・設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめることで関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に地域や自分自身の安全を守るためにできることを考えようとする態度を養う。

4 指導計画（総時数 9 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ①	○ 火事による被害について調べたことを基に学習問題を設定し、学習の見通しをもつ。 ・ 火事による被害 ・ 学習問題 ・ 学習の見通し	○ 火事の被害数や発生件数に関する資料を提示する。そうすることで、予防対策や緊急時の対応などといった活動に着目しながら、火事による被害が減少している要因について追究することができるようにする。
二 ⑧ 本時 2 / 8	● 火事による被害が減少している要因について調べたり、考えたことを図にまとめたり、調べたことや考えたことを交流したりする。 ・ 消防署の働き ・ 関係機関（消防団・警察署など）の働き ・ 施設・設備などの配置 ・ 関係機関の相互連携による緊急時の対処体制 ・ 関係機関と地域の人々の協力による火災防止 ・ 火事による被害が減少している要因	○ 学習問題について追究したことをまとめさせ、それを交流する活動を設定する。そうすることで、新たな問いを見いだしたり、考えを更新したりすることができるようにする。 ○ 学習の振り返りを一枚のワークシートに記録させる。そうすることで、単元の中でのつながりを意識しながら、その時間の課題を設定したり、学習を振り返ったりすることができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①施設の配置や緊急時の対応などについて、関連施設を見学・調査したり資料で調べたりして、情報を集め、読み取り、関係機関や地域の人々の活動を理解している。	①施設の配置や緊急時の対応などに着目して、問いを見いだし、関係機関や地域の人々の活動について考え表現している。	①地域の安全を守る働きについて、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことをまとめ、消防署などの機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火事などの防止に努めていることを理解している。	②関係機関に従事する人々の活動と地域の人々の生活を関連付けて、相互の関連や従事する人々の働きを考えたり、学習したことを基に地域や自分自身を守るためにできることを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基に地域や自分自身を守るためにできることを考えようとしている。

6 本時案 ー第二次・2時分ー

(1) 主眼 火事による被害が減少している要因について調べたり、調べたことや考えたことを交流したりする活動を通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解することができる。

(2) 準備 タブレット端末、振り返り用ワークシート、まとめ用ワークシート など

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 前時の振り返りを交流し、本時の活動を話し合う ・ 前時の振り返り ・ 本時の活動 ・ 本時のめあて	ア 前の時間は、自分でみがいたよ。今日は、友達の考えも聞いてみたいな イ はじめに、ためし・つながりで調べたことを交流し、その後、各自でみがきの時間にしていこうよ	・ 前時までの学習を内容と活動から振り返らせることで、単元のつながりを意識し、本時の活動を設定することができるようにする。	10
2 火事による被害が減少している要因について調べたことや考えたことを交流する ・ 友達の調べたことや考えたこと ・ 新たな問い	ア 火事が起きた時は、消防士だけでなく、いろいろな人たちが現場に駆けつけて対処しているよ イ 火事が起きないようにすることも、火事の減少につながるそうだよ	・ 学習問題について追究したことをまとめさせたものを交流する活動を設定することで、新たな問いを見いだしたり、考えを更新したりすることができるようにする。	20
3 火事による被害が減少している要因について調べる ・ 関係機関の相互連携による緊急時の対処体制 ・ 関係機関と地域の人々の協力による火災防止	ア 火事が起きた時は、消防士以外に、警察官や消防団の人に対処しているのだね イ 火事が起きないように、消防団が呼び掛けているみたいだよ	・ 調べる際に用いた資料を選んだ理由を明確にさせることで、自分の課題に応じた資料を用いて調べることができるようにする。	35
4 本時の学習を振り返る ・ 本時の振り返り ・ 次時の見通し	ア 消防士のおかげだと思っていたけど、多くの人たちが関わっていたことが分かったよ イ 友達と交流すると、新しい疑問も生まれたから、次も交流をして、調べていきたいな	・ 学習の振り返りを一枚のワークシートに記録させることで、単元の中でのつながりを意識しながら、その時間の課題を設定したり、学習を振り返ったりすることができるようにする。	45

(4) 評価規準と方法

火事による被害が減少している要因について調べたり、調べたことや考えたことを交流したりする活動を通して、消防署などの関係機関は、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解することができたか、発言やワークシートからみとる。

<メモ>